

ベトナムクアンナム省・ホイアン市を訪問して（所感）

長崎市議会議員 毎熊 政直

このたび、経済成長が著しいベトナムへ日越友好交流の象徴である「御朱印船」を官民共同で寄贈し、長崎の認知度の向上を図ることなどを目的として、ベトナムのホイアン市を訪問した。

今回の訪問には、市議会から、野口達也市議会議長はじめ、議員3名が同行した。

訪問初日に、御朱印船贈呈式の事前準備を視察した。寄贈する船が長崎くんちの御朱印船より二回り大きく、重いため、本石灰町と長崎大学学生の皆さんが操作に大変苦勞しながら、入念に練習を行っておられた。地元の皆様も多くの人達が見学に来られていて、交流への準備が進んでいた。

まちなかは3日ほど前に降った台風による大雨の被害が多く見られ、道路の一部が冠水していた。復旧作業中であったが、復旧技術は、日本と比べれば、レベルが違うと感じた。

ホイアン市への御朱印船寄贈を通して、これまで培ってきた長崎との歴史、交流の深さを再認識した。今後、長崎の企業が進出しやすい状況を作り、経済交流を促進するためにも、長崎市とホイアン市間の市民友好都市提携を考えるべきだと思った。

また、ベトナムは平均年齢が29歳と、大変若い世代が多いので、長崎の人手不足対策や、ホイアン市民の技術力向上のため、人材交流等を深めるべきだと思った。

さらに、戦争で多大な犠牲が出た都市という共通点があるため、今回被爆クスノキ2世の苗木の植樹を行ったように、平和交流もさらに進めるべきと考える。

今回の訪問は、長崎市とホイアン市の絆を強くする、良いきっかけとなったため、今後もさまざまな場面で協力しあい、より深い関係となれるよう努力することが大切だと強く感じた。